

事務事業評価調書 平成30年度行政評価（シート1）

所管部課名	協働推進部	観光課	作成日	平成30年7月24日	No.	3
作成責任者(課長)氏名	岡野 佳子	作成者氏名	瀬谷 崇	電話	224	
事務事業名	市民まつり開催事業					
開始時期	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成	18年10月	<input type="checkbox"/> 不詳	区分	<input type="checkbox"/> 主要事業 <input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業 <input type="checkbox"/> その他	
実施根拠	法令	条例	規則	要綱	計画	その他 ()
	1:義務規定 2:できる規定 3:方法等の規定					
事務事業の種類	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 (<input type="checkbox"/> 第1号法定受託事務 <input type="checkbox"/> 第2号法定受託事務)					
	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 (<input type="checkbox"/> 国庫補助対象 <input type="checkbox"/> 都補助対象 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独)					
補助の内容(補助率等) 武蔵村山市民まつり実行委員会に対して会場設営経費等の一部を補助する。(上限額は1,600万円)						
事務事業の概要	対象: 何/誰に対して	市民及び市外の方				
	手段(全体概要): どういった方法(内容)で実施するのか※具体的に記入	実施方法	<input type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 委託	<input checked="" type="checkbox"/> 市民協働・ボランティア	<input type="checkbox"/> 補助・助成等 <input type="checkbox"/> その他 ()
	意図: どのような状態にすることを目指すのか	武蔵村山市民まつり実行委員会を組織し、市民との協働により市民まつりを開催する。実行委員会は、各団体から選出された委員及び公募委員で組織し、市民まつりの企画・立案及びその円滑な運営を行うことを目的に市民まつり実施の基本方針、役員の選任、決算等を審議する。				
	実施結果: どうなったのか(29年度実績)	第12回村山デエダラまつり 開催日:10月21日(土)・22日(日)、会場:真如苑プロジェクト用地(榎一丁目) 来場者数:約8,000人(22日荒天中止)、協力団体・機関:70団体・機関、協賛:205件、飲食販売コーナー:51件、展示即売PRコーナー:74件				
類似事業の有無	<input type="checkbox"/> あり	実施部課(団体)名				
	<input checked="" type="checkbox"/> なし	類似事業名				
事業環境の変化	認知度の向上から年々、来場者数が増加しており、警備等に掛かる経費も増加している。					
他市等の状況	総論 ※26市等の状況	近隣市においても実行委員会を組織して実施しているが、市民が自ら創り上げていく市民まつりとして、市民参加型・広域連携型・発展進化型の形態によりイベントを実施しているのは本市のみである。				
	東大和市	うまかんべえ〜祭:地域住民の交流と東大和市の魅力ある食文化をいかし、地域社会を元気にすることを目的に平成24年度から開催している(事務局:東大和市、実行委員数22人、市補助金390万円)。				
	立川市	立川よいと祭り:市民相互のふれあいと交流を深め郷土意識を高めることを目的として平成元年から開催している(事務局:立川市地域文化振興財団、実行委員数41人、市補助金500万円)。				
市民・議会等からの意見						
【評価指標】	指標名	単位	説明・計算式			
活動指標	① 協力団体・機関数	団体	実行委員会構成団体等を含む。			
	② 協賛件数	件	企業、商店、団体等			
成果指標	① 来場者数	人				
	② 出店数	件				
費用・成果の推移	平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算	備考		
事業費(千円)	16,000	16,000	16,000			
うち一般財源	16,000	16,000	16,000			
所要人員(人)	2.58	2.58	2.58			
総コスト(千円)	37,861	37,761	37,841			
活動指標	① 70 団体	70 団体	70 団体			
	② 263 件	205 件	250 件			
成果指標	① 67,000 人	8,000 人	70,000 人	平成29年度は、荒天のため1日のみの開催		
	② 126 件	125 件	125 件			

一 次 評 価	必然性 ・市の関与、税金の投入は適切か ・都や民間との役割分担は適切か	（説明） <input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な点がある	村山デエダラまつりは、武蔵村山市商工会が開催していた産業まつりに代わり、観光要素を取り入れた市民が自ら創り上げていくイベントとして開催しているが、実行委員会のみで開催するには事業規模が大きく、市（事務局）への負担が大きくなっている。
	有効性 ・市民ニーズに適合し、効果が出ているか ・時代遅れではないか	（説明） <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 不適切な点がある	本事業は、「新しい“武蔵村山”の創造」をメインテーマに開催するとともに、本市の伝統、文化、自然などの素晴らしさを再認識し、地域の活性化と観光の振興を図る視点から実施しており、市内外に向けて本市の魅力を大いに発信している。
	手段の妥当性 ・手段に見直しの余地はないか ・他の事業と連携や統合はできないか	（説明） <input type="checkbox"/> 見直しの余地はない（ほとんどない） <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	「“見る”まつりから“参加する”まつりへ」をスローガンに、市民主体の事業に転換した経緯があるが、市民が主体となって実施できる規模や範囲を超えており、市（事務局）への負担が大きいことから、実施方法には見直しの余地がある。
	効率性 ・費用対効果に改善の余地はないか ・コスト削減の余地はないか	（説明） <input type="checkbox"/> 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 非効率的な点がある	広告収入や協賛金の増加に向けて新たな演出に努めているものの、まつりの規模が大きく、掛かる経費も大きいことから事業内容を見直し、設営経費等の縮減を図る必要がある。また、多くの費用が掛かっている事務局職員の時間外勤務経費及び庁内協働連絡会委員の人件費等の縮減も課題となっている。
	達成度 ・目標水準を達成できたか ・達成できなかった原因は何か	（説明） <input checked="" type="checkbox"/> 目標以上 <input type="checkbox"/> ほぼ目標どおり <input type="checkbox"/> 目標以下	市民が自ら創り上げていく市民まつりとしては、周辺地域において最大の規模を誇り、年々、来場者数が増加していることから、目標水準を上回っているものと考えられる。
	公平性 ・対象要件は適切か ・受益者負担は適切か ・地域差はないか	（説明） <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 不適切な点がある	全市民を対象として事業を実施していることから、公平性は保たれている。また、実行委員の選出に当たっては、市の主要な団体に推薦を依頼するだけでなく、公募も行っている。
	○廃止・休止した場合の影響 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きい <input type="checkbox"/> 影響は小さい <input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 廃止不可能	【今後の方向性】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	【総合的意見】 市民参加型・広域連携型・発展進化型のまつりとして開催しているが、本来のコンセプトである市民主体での実施には至っていない状況にある。 よって、市民が主体となって実施できるよう、事業のスリム化と事務の効率化を図り、市民まつりとして存続させるための抜本的な見直しが必要である。
（説明） ※その影響等を具体的に記入 市民まつりには、約7万人が来場しており、本市を広くPRする機会となっていることから、廃止・休止した場合の影響は大きいと思われる。			
二 次 評 価	【今後の方向性】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	【総合的意見】 本事業は、平成18年に開催して以来、毎年趣向を凝らしたイベントを実施するなど、発展・進化を遂げており、市内最大のまつりとして市民に定着していることから、実施する意義は十分に認められる。 しかしながら、近年は、ステージイベントや飲食販売等に注力する一方で、地域の伝統、文化、自然等の素晴らしさを再認識するという、まつり本来の目的が希薄化している。 また、武蔵村山市民まつり実行委員会を組織し、市とともに主催する形式をとっているが、まつりの規模が大きく、市が関与する割合が高くなっていることから、現状のままでは真に市民が主体となって自ら創り上げていくまつりへと発展させていくことは難しいものと思われる。 さらに、観光協会の設立について検討していることを考慮すると、当該協会に本事業を移管することも視野に入れた上で、市民が参加するまつりから市民が主体となって実施できるまつりへと発展するよう、事業規模の適正化や事務の効率化などを図る必要がある。	
行政評価委員会意見	本事業は、本年度で13回目の開催となり、約7万人の来場者を記録するなど、年々来場者が増加しており、本市の象徴として市内外に向けた魅力の発信等に寄与しているため、実施することには重要な意義が認められる。 しかし、趣向を凝らしたステージイベントの実施や復興支援に係る地方物産展の誘致など、年々発展・進化を遂げてきた一方で、まつりの運営に必要な人員や経費が増大するとともに、地域の伝統や文化等を再認識するという、まつり本来の目的が希薄化するなど、多くの課題も抱えている。 よって、当委員会としても本事業の実施方法を根本的に見直すことに異論はないが、見直しに当たっては、デエダラポッチや村山かてつどんなど、全面に打ち出すべき魅力を明確にし、ステージイベントや飲食販売の企画を見直すとともに、民間企業の活力や市内の小・中学生をボランティアとして活用するなど、実施体制も併せて見直していくことが肝要である。 なお、事業規模については、人員やコスト削減を図るための縮小という観点だけに囚われず、本事業の目的を達成するための適正な規模とすることを求めたい。		